

# A科1回生たより



京都繊維専門学校  
A科1回生  
昭和22年3月卒業  
卒業クラス人数34名  
卒業文集「波紋」発行  
会報～たより  
九十歳以上になった  
ので、最終号。  
平成三十年二月吉日発行

## 終活の(一)さま

酒井 辰夫

五、六年前のある日、「地元の小学校に  
関する戦前の資料を探している」と云っ  
て大学の若い先生が尋ねて来られたので、  
私の卒業するまでの「文集」十三冊、昭  
和八年に編集された「郷土読本」四冊、  
村の婦人会対象に開かれた「母の学校」  
の講義要項二冊等を提供し、その後、年  
に一、二度の来訪があつて「学校の成績  
物」「通知書類」「写真」等を話題にして  
交流を続けておりました。

その間に、英国の学会で研究発表をし、  
昨年九月には、今までの研究を博士論文  
に纏めたいと、指導の教授と連名の書類  
を持つて挨拶に来られました。

このことを子どもたちに話すと「これ  
までの資料はこの先生にお譲りしては如  
何です」と言われ、これまで、容易に終  
活、断捨離の進まない日を過ごしていた  
のが、一挙に決心がついてそのように処  
理して、一区切りができました。

また、保存状態が良好と言えないが、  
残っている教科書も次にお会いした時に  
相談したいと考えております。

同窓の皆さま、いろいろお世話になり  
ました。

沢山の思い出を有難うございました。  
百歳を目指してのご健勝をお祈り申し  
上げます。

## 平成三十年二月・運転免許更新す

甲斐 常興

一月十日、医師の診断でインフルエン  
ザでなく風邪と診断され対症療法による  
治療が続けていますが、一向によくなら  
ない。だが、二月が免許更新時期で実は  
免許更新はしないという計画を立ててい  
た。しかし、風邪にかかり医者や日常食  
品の買い出しに一々ハイヤーを呼ぶこと  
は出来ず、急遽運転免許証更新をするこ  
とになりました。

認知検査の指定日に検査場所に入った  
ところ十人ほどでみな七十代後半で、九  
十代はわが一人で気がひけました。判定  
がくだるまで下手な句を呟いて、

認知検査の日老翁が一人  
結果、「記憶力・判断力に心配ない」の第  
三分類に入り後日、高齢者講習を受け、  
あとは手続きだけです。

老奴となりましたが、今まで取り組ん  
できました美術関係の研究は続けてまい  
ります。

最後に寒波続く折、長年の同窓会の維  
持に労苦された山本兄に感謝し、積雪の  
多い福井の萩野兄、寒さ厳しい丹波の国  
の酒井兄をはじめ諸兄を案じ、ご健康と  
ご多幸を祈っています。  
“ひたすら各同窓と再会できることを  
願って”

## MCI (軽度認知障害)

大島 宏作

### 『壁に貼り紙』

◎やさしい言葉で安心感を与える!

◎勝手なことを、言っているようでもよく耳を傾ける!

◎一人の人間として尊重し、恥をかかせない!

◎失敗を責めたり、説得や指導をしな

い!

◎傷つける言葉

思い出して 何度も言ったのに

どうして出来ないの

『自己評価』 六〇点

実行は難しい。殊に防災面には、ツ

イ! キビシイ言葉を!

忍耐がいるものですね。

認知症の進行は無く。夕食の後始末は

進んで実施するようになった。

やや回復!

忍耐強く頑張らねば!



## 隻眼の苦悩を克服し、

「心眼」の開眼を実現する

「人生の構築」を目指したい

齋藤 忠

私はA科二年になると同時に、JR山  
陰線花園駅の直ぐ近くの「小山町にある  
六畳二間部屋の長屋の一軒を借り、食糧  
は隣組を通じての配給食材(ひどい時は  
抹茶一杯、米無し)と綾部市の生家から  
時折運ぶ「蘭米」を使つての自炊生活を  
始めました。そんな関係で、通学は、禪  
宗妙心寺派の本山の境内を通り抜けての  
徒歩通学でした。十月中旬頃の有る朝、  
いつもより家を出発する時間が早かつた  
ので、時間つぶしに方丈の建物付近を散  
歩してました。ふと小さな水音に眼を  
向けると、境内を流れる小さな小川で、人  
間の小指にも満たない、小さな小さな「さ  
つまいも」を我が子の成長をいたわるよ  
うな手つきで一生懸命洗っているご婦人  
の姿の中に「いたわり」の温かい心が感  
じられ、ものすごく感動を覚えました。

後刻聞きました所、管長瑞蔵様ご内  
室ということでしたので、成程、平素か  
ら「人間生きる姿の根底に貫抜かるべき  
『心』をこそ大切に日々修行されている  
のだなあ・・・」と敬服一入の思いでし  
た。

一方、私は、わが身の内面を顧みる事  
も無く、卒業・教職へ就職。四十年を経  
て退職。引き続いて、教育行政の仕事に  
転じ、二十二年間勤めた時には、我が人  
生で見失つた者にも気づかずにはいまし  
たが、右眼を失い隻眼の身になり、初めて  
「生きる命の柱として、『心眼』を身に着  
けたい」と妙心寺の麻の感動を思い出し  
ました。

## 近況報告

中山 正昭

今年はずの他、寒い日が続いていま  
が、皆さまにはお変わり有りませんか。  
私事で恐縮ですが、昨年の六月脊椎管狭  
窄が再発し左足の指が三本痺れ歩行困難  
となり大変不便を感じているところです。  
しかし、補装具をつければ、短距離は  
杖をついて歩ける程度になり、リハビリ  
を続けているところです。

趣味の茶道の方も正座が不可能のため、  
飲むだけでお手前はできず、また、ゴル  
フも無理となり寂しいかぎりです。  
仕事の方は、毎日七時半の会社の朝礼  
に出しておりますが、満九十歳を超すと  
いえる駄目になりますね。

いつまでこの状態が続くものかと不安  
に思いながら頑張っております。  
昨年の会報を見ながら色々想像して  
いるところです。

皆さまも十分、身体を労わってください  
い。健康を祈つて失礼致します。



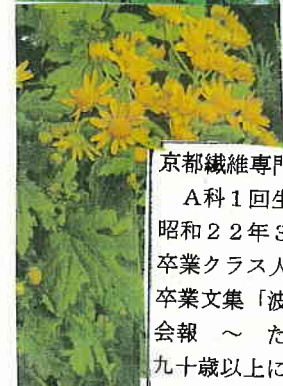
今年から歩み始める「我が人生九十一  
歳」の道程を、悔い残さぬように生き抜  
きたいと決意しています。

お互いに九十歳台の年齢になり、一日  
一日を大切に生き抜き、再会の機会に恵  
まれますよう、祈念しております。



# A科一回生たより

京都繊維専門学校  
A科1回生  
昭和22年3月卒業  
卒業クラス人数34名  
卒業文集「波紋」発行  
会報～たより  
九十歳以上になった  
ので、最終号。  
平成三十年二月吉日発行



## A科の皆様

福永 和二兄の奥様 久江様より

今年は何年にも無く厳しい寒さになって  
おります。

皆様にはお変わりありませんか。

お忙しい中いつも「A科たより」を届  
けて戴きましてまことに有難うございま  
す。「A科たより」を本人に見せていま  
す。全く覚えていません。

この三月に九十一歳になります。七十  
歳の時に認知症であることが分かり、も  
う限界というところまでは、頑張ったの  
です。

今年の六月で五年になりますが、グル  
ープホームの施設に入居しております。

現在、アルツハイマー型認知症で介護  
三です。お蔭さまで施設の方、皆さんに  
よくしてください、本人にとっても良か  
ったのではないかと思っております。

最後の「A科たより」で一行でもとい  
うことで、本人に書いてもらったのが、  
左側、手を添えて書いたのが右側です。  
今まで、お知らせ出来なかったのは、  
本人が何んとかく哀れに思えたからです。  
申訳ございません。

些少ですが、切手代として同封致して  
おります。

皆様方のご健康とご多幸を心よりお祈  
り申し上げます。

## 「A科一回生たより」について

西田 治

寒中お見舞い申し上げます。

「A科一回生たより」有難うございます。

寒い日には学生時代の寮生活を思い出し  
ます。若いので冬が越せたのでしうね。

当時の思い出が小生の元気の源です。

「たより」をいつも手元に置いて、読み  
返しています。

皆さまに元気を頂きお礼を申し上げます。

諸兄のご健康を願っております。

## 君に「青春」を送る



昭和二十二年三月卒業時に記念文  
集「波紋」を発行して以来、時折、学  
生時代の「青春」を思い出す会報・た  
よりを発行してきた。

今年、「波紋」発行以来、何んと  
本年で七十一年目。驚きだ。

戦前・戦後の時代の流れとクラスメ  
ンバーの手柄に青春時代の触れ合い  
が、仲間を引き付ける魅力を作ったの  
だ。

素晴らしい「青春」は、仲間と共に  
君が作り出し、また、受け取ったのだ。  
これは、君が作った「貴重な青春」だ。  
大いに満喫したまえ。

さて、残念ながら、「青春」を配達  
してきた「たより」も高齢化し、本年  
で休刊とする。

次回は、百歳記念号を発行しよう。  
共に作るうではないか。

## 編集後記

山本 孝

大変寒い日が続いています。私の住  
む城陽市は京都駅よりJR快速で約  
二十分の南で、京都市中心部より暖か  
く雨が少ない土地ですが、朝は、マイ  
ナス温度の日が数日続き震えました。

私は、家内と二人の生活ですが、家  
内が大島兄の奥様と同病の介護二で  
食事・家事一切の仕事をしております。

と言うと格好が宜しいが、日々は厳  
しい状況で、切り抜け法を模索中です。  
ところが、先日、家内が転んで、膝

を骨折、そちらに手を取られて「たよ  
り」が遅れました。申訳ありません。

京都繊維専門学校付近を見たり、  
京都市内の移り変わりを報告したい  
と思ってきましたのに行くことが出来  
ずに残念でした。百歳記念号まで待っ  
て貰いましょう。

卒業文集「波紋」の発行以来七十  
一年、よくも同級生の絆が切れずに、会  
報が続いたものと感心しております。

続いたのは、何んといつてもA科一  
回生の皆さんが良い友達、仲間だっ  
たからです。お互いに幸運でした。

福永兄よりカンパして頂いたので、  
思い切って紙面をカラーにしました。  
出来栄えが全く変わります。感謝です。

諸兄全員の健康と長生きを祈って  
います。鬼が笑っても、心はいつも青  
春で、百歳目指して生きようではありませんか。

A科一回生に幸あれ!

2018年2月17日

### 「A科一回生たより」の会計報告

収入。4241円	内訳。2000円(現金)×1。	246円(切手)×1。
	328円(切手)×3。	870円(切手)×1。
	141円(前号の残金)	
支出。4156円	内訳。806円(葉書62円×9+再度62×4)	
	80円×2×11名分(カラーコピー。同窓会本部)	
	10円×11名分(コピー代。同窓会本部)	
	280円(11枚分の封筒代)発送費。1200円(120円×10)	
残金。85円	雑費として頂きます。	
これで収支0です。	2018年2月17日	会計。山本 孝 印

